

第4章 しながわ観光の戦略と施策

品川区では、しながわ観光のコンセプト・目標である「繰り返し訪れて楽しいまち しながわ」の実現に向けて、以降に示す5つの戦略に基づいて観光施策、関連事業を推進していくとともに、事業者、関連団体、観光協会等の観光に関わる取組みを支援していきます。

◆観光コンテンツの充実と情報発信 ～しながわ観光のプロモーション強化～

本プラン「2-1 しながわの観光的特徴」にも示したように、品川区内には、都市に潤いを与える水辺や公園といった自然資源、特色ある商店街、東海道や神社仏閣などの歴史資源など、多様な観光資源が点在しています。

しかしその一方で、区内の資源のほとんどは大規模商業施設等のように高い集客性を目指した資源でなく、その多くは人々の暮らしや生活・文化に根ざした身近な資源です。このため、これら資源を、賑わいを生み出す“観光資源”として活用していくためには、観光コンテンツとしての魅力の向上と、適切な情報発信が必要不可欠です。

以上を踏まえ本プランでは、「戦略A 観光コンテンツの充実」「戦略B 情報発信の強化」をしながわ観光の戦略として位置づけ、これに基づく施策を推進していきます。

◆しながわ観光を支える仕組み・環境・体制の強化

品川区の観光的魅力をより一層高めていくためには、上述した「戦略A 観光コンテンツの充実」「戦略B 情報発信の強化」に加えて、しながわ観光を支える「仕組み」「環境」「体制」を強化し、官民一体となって観光振興に取り組んでいくことが重要となります。

「仕組みづくり」としては、観光に係りの深い交通や宿泊、商業（飲食、物販等）の各事業者との連携や、東京都や周辺区との連携が重要であり、また「環境づくり」としては、取組みの基盤となる施設やインフラの整備が重要となります。さらに「体制づくり」としては、しながわ観光を支える担い手の育成や、推進組織への支援等を充実させていくことが重要です。

以上を踏まえ本プランでは、「戦略C 連携による魅力の向上」「戦略D 魅力的な環境づくり」「戦略E しながわ観光を支える体制の充実」を、しながわ観光の戦略として位置づけ、これに基づく施策を推進していきます。

しながわ観光の5つの戦略と施策の体系

観光コンテンツの充実と情報発信

戦略A 観光コンテンツの充実 ～“しながわ”ならではの過ごし方の提案～

- 施策A-1：ウォーターフロントを核とした賑わい創出
- 施策A-2：商店街を活用した観光の推進
- 施策A-3：歴史めぐり観光の推進
- 施策A-4：スポーツ観光の推進
- 施策A-5：文化・芸術観光の推進
- 施策A-6：しながわショートトリップの推進

戦略B 情報発信の強化

- 施策B-1：観光案内拠点の更なる充実
- 施策B-2：多様な媒体を活用した情報発信
- 施策B-3：情報の一元的集約と発信
- 施策B-4：他地域や宿泊・交通事業者等との連携によるプロモーション
- 施策B-5：区民への適切な情報発信
- 施策B-6：外国人観光客獲得に向けたプロモーション強化

しながわ観光を支える仕組み・環境・体制の強化

戦略C 連携による魅力の向上

- 施策C-1：交通との連携による魅力の向上
- 施策C-2：区内の施設との連携による魅力の向上
- 施策C-3：関連産業との連携による魅力の向上
- 施策C-4：広域連携による魅力の向上

戦略D 魅力的な環境づくり

- 施策D-1：観光拠点・交通インフラの充実
- 施策D-2：公共空間の観光活用の推進
- 施策D-3：良好な景観形成
- 施策D-4：情報インフラの充実
- 施策D-5：安全で安心な観光都市の形成

戦略E しながわ観光を支える体制の充実

- 施策E-1：担い手の育成
- 施策E-2：推進組織への適切な支援
- 施策E-3：外国人観光客の受入れ体制強化
- 施策E-4：観光統計等の整備

戦略A | 観光コンテンツの充実

～“しながわ”ならではの過ごし方の提案～

品川区内に点在する資源の多くは、高い集客性を目指した大規模商業施設等とは異なり、地域の憩いの場である水辺や公園、生活を支える商店街など、区民の生活や暮らしに密着した身近な資源です。こうした資源を、観光資源として活用していくためには、資源そのものを売り出すのではなく、例えば、まち歩きツアーやイベントの中で活用していくといったように、観光コンテンツとしての付加価値を高めて売り出すことが肝要です。

またこうした観光コンテンツの充実を通じて、他の地域では体験できないような“しながわ”ならではの過ごし方、“しながわ”らしい観光スタイルを提案していくことが重要です。

しながわ観光の推進にあたっては、従来からの品川区の主要な観光コンテンツである「①ウォーターフロント（水辺）」「②商店街」「③歴史」に加えて、オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定やビジネス需要の高まりといった近年の社会情勢の変化を踏まえた新たなコンテンツとして「④スポーツ」「⑤文化・芸術」を取り上げ、これらの充実を図っていきます。

さらに上記に加えて、区内就業者やビジネス客をターゲットとしたアフター5観光や、乗換えなどの空き時間を活用した観光、鉄道駅を起終点としたまち歩き観光など、短時間で楽しめる観光プログラムの充実を目指して「⑥しながわショートトリップ」を推進していきます。

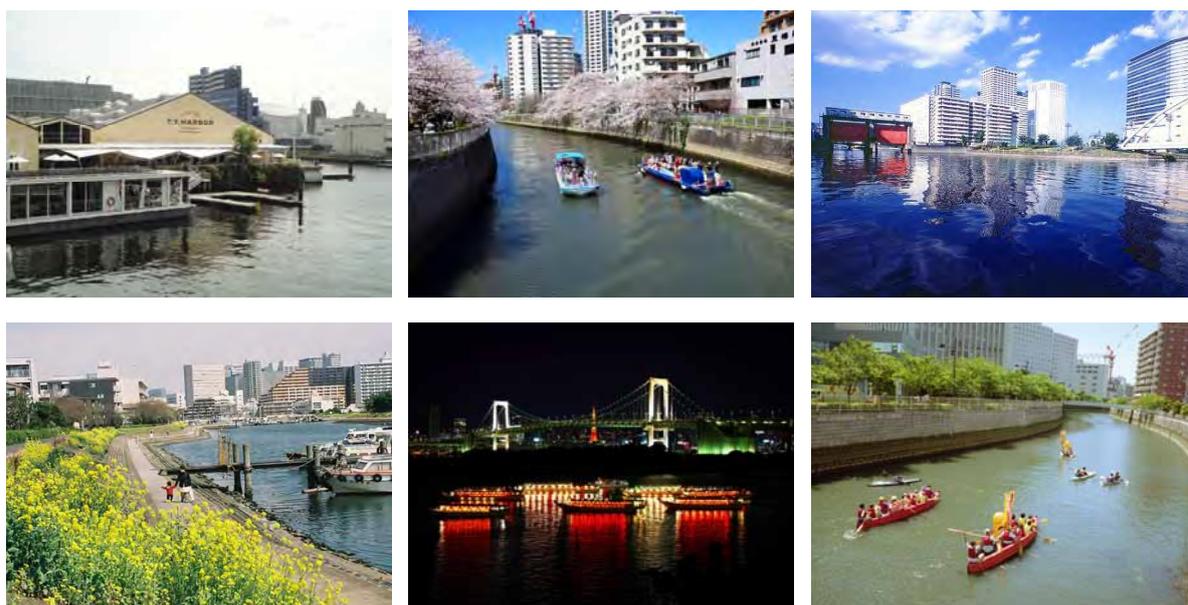
施策A-1 ウォーターフロントを核とした賑わい創出 ～水辺・舟運の観光活用～

運河や河川の水辺、運河や河川を活用した観光舟運は、しながわ観光を特徴づける重要なコンテンツです。水辺についてはこれまで、天王洲や勝島運河、目黒川等において、地域の事業者や市民団体、行政等が中心となって、船着場や花壇などの各種環境整備、イベントの開催等の観光活用に関わる様々な取組みが行われてきました。また運河や河川を活用した観光舟運に関しては、事業者、観光協会、行政が協力しながら、観光舟運の利用促進に向けた取組みが行われてきました。

また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の競技会場予定である「都立大井ふ頭中央海浜公園」（ホッケー、ブラインドサッカー）、「潮風公園」（ビーチバレー）はともに品川区のウォーターフロントに位置しており、五輪に向けて品川区のウォーターフロントは今後ますます注目が高まるものと考えられます。

今後のしながわ観光の推進にあたっては、こうしたこれまでの取組みを継承・支援しつつ、「水辺の観光利用の促進」「観光舟運の活性化」「舟運による広域連携」等の取組みを推進し、ウォーターフロントを核とした賑わいの創出を図っていきます。

特に、舟運事業者が集積するとともに、水辺にデッキや栈橋、レストランといった魅力的な施設が整備され、また水辺を活用したまちづくりが展開されている天王洲・品川浦地区周辺に関しては、「水辺・舟運の観光拠点」として位置づけ、品川区内の船着場や、船着場を有する区外の観光拠点（羽田空港、お台場、秋葉原、日本橋、浅草など）との結ぶ舟運コースの設定や連携イベントの実施などを通じて、積極的な活用を図っていきます。また更に、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据えて、品川区の「水辺・舟運の観光拠点」として積極的なPRを図っていきます。



区内のさまざまな水辺

<施策の展開例>

※ 【 】内は想定される取組み主体

◆水辺の観光利用の促進

- 水辺を活用したイベント等の開催 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- ケータリングカーの設置等、水辺に親しんでもらうための仕掛けづくり 【事業者、行政】
- まち歩きや散策ルートとしての水辺の活用 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- E ボートやカヤック等の水上スポーツの場としての活用 【関連団体、観光協会、行政】
- 区内の水辺、栈橋・船着場の新たな観光活用・活性化方策の検討 【関連団体、観光協会、行政】

◆観光舟運の活性化

- 舟運を活用した各種観光ツアー、観光プログラムの充実 【事業者、観光協会、行政】
- まち歩きツアーとの連携（「まち歩き」+「舟運」のパッケージツアー等の開催 【事業者、観光協会、行政】
- 区内船着場の利活用方策の検討 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

◆舟運による広域連携

- 舟運の活性化に関する東京都や周辺区との調整・検討 【観光協会、行政】
- 舟運による羽田空港、お台場、日本橋、浅草等の区外の観光拠点との連携促進 【事業者、観光協会、行政】

◆天王洲・品川浦地区における「水辺・舟運の観光拠点」の形成

- 親水デッキや船着場等を活用した水辺の賑わい創出（イベント開催、水辺への飲食店等の誘致） 【事業者、行政】
- 舟運事業者との連携による新たな観光ツアー、観光プログラムの充実 【事業者、観光協会、行政】
- 舟運による羽田空港、お台場、日本橋、浅草等の区外の観光拠点との連携促進 【事業者、観光協会、行政】
- 船着場と品川区内の船着場を結ぶ舟運ルートの検討 【事業者、観光協会、行政】
- 「水辺・舟運の観光拠点」として積極的なPR 【事業者、観光協会、行政】

施策A-2 商店街を活用した観光の推進

品川区内には元気で活力のある商店街が数多く点在しており、これら商店街の中には身近な観光スポットとして区外からも多数の人々が訪れるような商店街もあります。また、これまで品川区内では、こうした元気で個性的な商店街の魅力を活かして、「つまみ食いウォーク」やバルイベントをはじめとする様々な集客イベントが継続的に行われており、こうした商店街を活用した集客イベントは、品川区を代表するイベントとして定着しつつあります。

また、区内各地域に点在する商店街は、区民の普段の生活・暮らしに密着した観光資源であり、品川区の目指す、生活環境そのものを舞台とした「都市型観光」の実践において欠かすことのできない重要な観光資源であると言えます。

このため、品川区の今後の観光振興にあたっては、「つまみ食いウォーク」や「しながわ宿場まつり」、バルイベントといったこれまでの取組みの成果や課題を踏まえつつ、こうした商店街における年間を通じたイベント等を観光資源として活用・発信していきます。



区内の商店街やイベントの様子、チラシ

＜施策の展開例＞

※ 【 】内は想定される取組み主体

◆商店街と連携した集客イベントの実施

- 商店街と連携した集客イベントの開催 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- 集客イベントへの支援 【関連団体、観光協会、行政】

施策A-3 歴史めぐり観光の推進

品川区内には、旧東海道品川宿、荏原七福神や東海七福神などの歴史的資源が点在しています。また、板垣退助や伊藤博文の墓所、浜川砲台跡などの明治維新に関わる史跡等が点在していることも大きな特徴です。

また近年、こうした品川区内の歴史資源を巡るツアー等は高齢者を中心に人気を博しており、シニア世代の増加という現状を考えると、こうした歴史資源を巡る観光プログラムに対するニーズは今後益々高まるものと考えられます。

今後の品川区の観光振興にあたっては、これまで実施してきた歴史資源を巡るツアー等を継続的に開催していくとともに、例えば品川歴史館との連携を図るなど、文化財行政とも連携・協力を図り、区内の歴史的資源の観光活用をより一層推進していきます。

さらに、平成30年の明治維新150周年にあわせて関連イベント等を実施します。



区内の歴史的資源や歴史を巡るツアーの様子

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆歴史資源を巡る観光プログラムの充実

- 歴史的資源を巡るツアー等の開催 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- 文化財行政との連携による、歴史的資源の観光活用の推進（品川歴史館と連携した講座、ツアー等の開催） 【関連団体、観光協会、行政】

◆明治維新 150 周年に係る取組みの推進

- 坂本龍馬、伊藤博文、板垣退助などの縁の地域との連携イベントの実施 【関連団体、観光協会、行政】
- 明治維新 150 周年記念イベントの実施 【関連団体、観光協会、行政】

施策 A-4 スポーツ観光の推進

品川区ではこれまでも、区民スポーツ大会、しながわマラソン等のスポーツイベントが行われてきました。また、区内の「都立大井ふ頭中央海浜公園」のスポーツの森は、第三種公認陸上競技場、野球場 6 面、人工芝グラウンド、テニスコート等を有する都内有数のスポーツ公園であり、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会では、ホッケーとブラインドサッカーの競技会場になる予定です。

さらに近年は、健康志向の高まりから、ウォーキングやランニング、サイクリングなどが健康維持のための身近なスポーツとして、多くの人に人気を博しています。

今後の品川区の観光振興にあたっては、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、新たな観光コンテンツとして「スポーツ観光」を取り上げ、「観る」スポーツ観光、「する」スポーツ観光の両面から、スポーツをテーマとした観光振興に取り組んでいきます。また開催後についても、大会開催を通じて整備されるスポーツ施設や、得られるノウハウ等を観光振興のレガシー（未来への遺産）として積極的に活用していく事とします。

更に、品川区民がスポーツの魅力に触れる機会を増やしていくとともに、区民や区内就業者などがウォーキングやランニング、サイクリングといった身近なスポーツを楽しむような機会を増やしていきます。



区内で開催されるスポーツイベントの様子

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆「観る」スポーツ観光の推進

- (After 五輪) 五輪レガシーを活用したスポーツイベントの積極的な誘致 【関連団体、行政】

◆「する」スポーツ観光の推進

- (Before 五輪) 五輪開催に向けた関連スポーツイベントの開催 【関連団体、行政】
- ウォーキングやランニング、サイクリング等の身近なスポーツの促進（関連イベント開催や利用拠点・環境の整備） 【関連団体、行政】
- 運河や河川の水辺を活かした E ボートやカヤック等の水上スポーツの促進（関連イベント開催や利用拠点・環境の整備） 【関連団体、行政】
- 区民が参加できるスポーツイベント等の開催 【関連団体、行政】

施策A-5 文化・芸術観光の推進

品川区ではこれまで、区内のきゅりあん（大ホール）や、スクエア荏原（ひらつかホール）等の劇場、ホールを活用して区民芸術祭などの文化・芸術イベント等を行ってきました。また区内にはその他、十四世喜多六平太記念能楽堂といった伝統芸能に関わる施設や、劇団四季の専用劇場である四季劇場[夏]や天王洲銀河劇場といった民間の劇場もあり、こうした劇場等で開催される演劇やミュージカル、コンサートには年間を通じて多くの観客が訪れています。また更に、天王洲地区では地元協議会等が中心となってアートイベント等が開催されるなど、アートをテーマとしたまちづくり・活性化が進められています。

また区内には上述した劇場等の他、O美術館、原美術館、久米美術館といった美術館等も点在しています。

このような現状を踏まえ、今後のしながわ観光においては、区内の劇場やホール、美術館等で開催されるイベント等についても、しながわ観光の重要な観光コンテンツとして位置づけ、「文化・芸術観光」を積極的に推進していきます。具体的には、関連団体や民間事業者と連携を図りながら、演劇・音楽・美術等のアートイベントの積極的な誘致を行うとともに、観光協会と連携を図り、こうしたアートイベントの情報を観光関連サイトでも積極的に情報発信していくこととします。



区内で開催される文化・芸術イベントの様子

<施策の展開例>

※【】内は想定される取組み主体

◆演劇・音楽・美術等のアートイベントの積極的な誘致・開催

- アートイベントの積極的な誘致・開催 【事業者、関連団体、行政】
- 民間主体の文化・芸術イベントへの支援 【事業者、関連団体、行政】

◆演劇・音楽・美術等のアートイベントの積極的な情報発信

- アートイベントの積極的な情報発信・PR 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

施策A-6 しながわショートトリップの推進

品川区は、夜間人口よりも昼間人口が多いことから分かるように、ビジネスの街としての性格を有しており、こうした区内就業者やビジネス客（出張者等）もしながわ観光の重要なターゲットです。また、品川区の周辺には東海道新幹線が発着する品川駅、国内線および国際線が就航する羽田空港がありますが、これら品川駅、羽田空港の利用客もしながわ観光の重要なターゲットです。こうした品川駅や羽田空港の利用者に対して、例えば出発までの数時間を活用して楽しめる観光プログラムを提供できれば、しながわ観光の裾野をより一層広げることが可能です。

さらに、鉄道網が非常に発達している品川区の場合、こうした鉄道駅を中心として、商店街や神社仏閣、水辺・公園等の資源を比較的短時間で巡れるような観光コースを充実していくことが有効であると考えられます。

今後の品川区の観光振興にあたっては、区内就業者やビジネス客等をターゲットとしたアフター5の観光や、品川駅や羽田空港の利用者が出発までの空き時間で楽しめる観光、駅などの交通拠点を基点としたまち歩き観光等、比較的短時間で楽しめる区内観光を「しながわショートトリップ」として位置づけ、その充実を図っていきます。

<施策の展開例>

※【】内は想定される取組み主体

◆区内就業者やビジネス客等をターゲットとしたアフター5観光の推進

- 商店街や飲食店と連携したアフター5イベントの開催 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- 舟運事業者との連携によるナイトクルーズ 【事業者、観光協会】
- アフター5観光の発掘・検討 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- アフター5観光の情報発信 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

◆品川駅や羽田空港利用者をターゲットとした「しながわショートトリップ」の推進

- 品川駅や羽田空港からの出発前の数時間に対応した観光プログラムの開発 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

◆交通拠点を起点とした「しながわショートトリップ」の推進

- 鉄道駅を起点として、周辺の観光資源（商店街、歴史資源、水辺・公園等）を巡る短時間の回遊ルートの開発 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- 大崎駅西口バスターミナル周辺の観光資源を巡る短時間の回遊ルートの開発 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

戦略B | 情報発信の強化

本プラン「2-1 しながわの観光的特徴」に示したように品川区には多種多様な資源がありますが、これらを観光資源として活用していくためには、「戦略A 観光コンテンツの充実」によって内容の充実を図るとともに、こうした資源やコンテンツに関する適切な情報発信を行い、多くの人にその魅力を知ってもらうことが必要不可欠です。

今後の品川区の観光振興にあたっては、「①観光案内拠点の充実」「②多様な媒体を活用した情報発信」「③情報の一元的集約と発信」「④他地域や宿泊・交通事業者との連携によるプロモーション」「⑤区民への適切な情報発信」「⑥外国人観光客獲得に向けたプロモーション強化」に取り組み、情報発信をより一層強化していきます。

施策B-1 観光案内拠点の更なる充実

品川区では、前計画「品川区都市型観光アクションプラン（平成18年3月／品川区・しながわ観光協会）」に基づいて、観光案内所を開設しており、平成21年には旧東海道品川宿に「品川宿交流館」が、平成23年には大井町に「しなかん PLAZA」がそれぞれオープンしました。

今後の品川区の観光振興にあたっては、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据え、こうした既存の観光案内拠点の機能をより一層高めていくとともに、品川区を訪れる観光客の多くが利用する鉄道駅などの交通拠点における観光案内機能の強化を図るなど、観光案内拠点の更なる充実を図ることとします。



区内の観光案内拠点

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆既存の観光案内拠点の機能強化

- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据えた外国人観光客対応の強化 【観光協会、行政】

◆鉄道駅など交通拠点における観光案内機能の強化

- 鉄道駅における観光案内拠点の設置検討 【事業者、観光協会、行政】

施策B-2 多様な媒体を活用した情報発信

観光庁が平成25年に訪日外国人観光客を対象に実施した調査によると、外国人観光客が日本滞在中に役に立った情報としては、「インターネット（スマートフォン）」（回答率39.8%）、「インターネット（パソコン）」（同36.8%）が最も多く挙げられており、外国人観光客に対してはインターネットによる情報発信が有効であると言えます。

しかしその一方で、高齢者を中心に主にインターネット以外の手段で情報収集している人々も一定割合存在すると考えられる事から、観光情報の発信にあたっては、インターネットの活用に重点を置きつつも、ターゲット層にあわせて多様な媒体を活用した情報発信を基本とすることが有効であると考えられます。

今後の品川区の観光振興にあたっては、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据えて、インターネット環境を活用した情報発信を強化していくとともに、紙媒体による情報発信や、マスメディアと連携した情報発信など、多様な媒体を活用した情報発信を進めていきます。



観光パンフレットやスマートフォン用アプリ

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆インターネット環境を活用した情報発信の充実

- ホームページ情報の適切な更新・充実 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- SNSやブログ等の個人の口コミ情報に着目した情報発信 【観光協会、行政】

◆紙媒体による情報発信の継続

- 観光マップや観光パンフレットの発行・配布 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

◆マスメディアと連携した情報発信

- マスメディアへの適切な情報提供 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- テレビ番組などのロケ地の情報発信 【観光協会、行政】

施策B-3 情報の一元的集約と発信

品川区の各地で開催されている地域の盆踊りや縁日、商店街のイベント等は、その地域の人にとっては日常的なイベントであったとしても、地域外の人にとっては新鮮なものとして受け取られる場合があります。特に外国人観光客にとっては、こうした地域に古くから伝わる祭礼やイベントこそが、その国の伝統や文化に触れることができるものとして魅力的に映ります。

しかし現状では、こうした品川区の各地で開催されている規模の小さい祭礼やイベントの情報が一元管理・発信されていないため、一般の観光客がこれらの情報を得ることが困難な状況にあります。

今後の品川区の観光振興にあたっては、これまであまり扱われてこなかった区内各地域の盆踊りや縁日、商店街のイベント等の情報についても一元的に集約を図るとともに、観光客が入手しやすいように適宜、情報発信を行っていきます。

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆区内の各地域で開催される小規模な祭礼、イベントの情報を一元的に管理するための仕組みの構築

- 観光協会への情報集約の仕組みづくり 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

◆しながわ年間イベントカレンダーの公開・情報発信

- 観光協会のホームページを活用した、年間イベントカレンダーの公開、効果的な情報発信 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

施策B-4 他地域や宿泊・交通事業者等との連携によるプロモーション

観光プロモーションの訴求力を高めるためには、品川区単独ではなく近隣区や東京都等の他地域と連携・協働によるプロモーションを実施することが有効です。特に区の違いを意識しないと考えられる外国人観光客に対しては、品川区単独でPRするよりも、近隣区や東京都とともにPRした方が、マーケットに対する訴求力が高まります。

また、しながわ観光のプロモーションにあたっては、区内の宿泊事業者や交通事業者、旅行代理店と連携を図り、こうした民間事業者のノウハウを活かして、効果的にしながわ観光の魅力をもPRしていくことが有効と考えられます。

今後の品川区の観光振興にあたっては、効果的なプロモーションを展開していくために、東京都や近隣区との連携、宿泊事業者や交通事業者、旅行代理店等の民間事業者との連携を図っていくこととします。

＜施策の展開例＞

※ 【】内は想定される取組み主体

◆東京都や近隣区等との連携による観光プロモーションの実施

- 東京都や国が主催する観光プロモーションへの参画 【観光協会、行政】
- 近隣区との連携による観光プロモーションの実施 【観光協会、行政】

◆宿泊事業者や交通事業者等との連携による観光プロモーションの実施

【事業者、観光協会、行政】

施策B-5 区民への適切な情報発信

商店街や水辺・公園といった身近な資源を活用した品川区の「都市型観光」においては、品川区民も重要なターゲットであり、区内観光を促進することで、区内各地域の活性化と賑わい創出を図るとともに、本区への誇りや愛着を醸成することが重要です。さらには、品川区民には区外からの観光客をもてなし、案内する受け入れ側の主体としての役割も期待されます。

このため品川区の観光振興においては、その重要な顧客であり、また受け入れ側の主体としても期待される品川区民に対して積極的に情報発信を行い、区民観光を促進していきます。



区民に向けた区報「広報しながわ」やケーブルテレビジョン

＜施策の展開例＞

※ 【】内は想定される取組み主体

◆様々な媒体を活用した区民への観光情報の提供

- 「広報しながわ」における区内観光情報の掲載 【観光協会、行政行政】
- 品川区広報番組における区内観光情報の発信 【事業者、行政】

施策B-6 外国人観光客獲得に向けたプロモーション強化

平成15年の観光立国の宣言以降の国を挙げた取組みの結果、訪日外国人観光客は近年、大幅な増加傾向にあります。また、2020年に開催が決定しているオリンピック・パラリンピック東京大会では、数多くの外国人観光客が東京を訪れることとなりますが、こうした中であって、羽田空港からも近く、また競技会場も立地する品川区の注目度は今後高まるものと考えられます。

こうした状況を踏まえ、今後の品川区の観光振興にあたっては、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を外国人観光客を獲得する絶好の機会と位置づけ、海外向けの観光プロモーションを強化していきます。



海外旅行博(ベトナム)でのPRの様子

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆東京都や近隣区等との連携による海外向けプロモーションの実施

- 東京都や国が主催する海外向けプロモーションへの参画 【行政】
- 近隣区との連携による海外向けプロモーションの実施 【行政】
- 東京都や近隣区等との連携による海外のメディア、旅行会社の招請 【観光協会、行政】

◆品川区の姉妹都市、友好都市等へのプロモーションの実施

- 品川区の姉妹都市（ポートランド市／アメリカ合衆国）、友好都市（ジュネーヴ市／スイス連邦、オークランド市／ニュージーランド）、教育交流都市（ハルビン市／中華人民共和国）への観光プロモーション 【観光協会、行政】

◆区内の大使館や領事館との観光・交流面での連携促進

- 区内のイベントへの参加要請 【観光協会、行政】
- 各国への観光プロモーションの実施 【関連団体、観光協会、行政】

◆観光情報の多言語化

- 観光に係るホームページやパンフレット等の多言語化 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

戦略C | 連携による魅力の向上

品川区の観光振興を効率的、効果的に推進していくためには、事業者、関連団体、観光協会、行政等の関係者が相互に連携・協力し、各主体が有するノウハウや情報を相互に活用しながら取組みを進めていくことが重要です。

そこで、「①交通との連携」「②区内の施設との連携」「③関連産業との連携」「④広域連携」といった様々な連携を図ることで、しながわ観光の魅力をより一層高めていくこととします。

施策C-1 交通との連携による魅力の向上

品川区内には、鉄道、モノレール、バスといった公共交通機関が、網の目のように張り巡らされており、区内の何れの場所からも比較的安価に、簡単に移動することが可能です。また品川区は、首都・東京の玄関である羽田空港、品川駅から鉄道やバス等の公共交通機関で簡単にアクセス可能です。品川区内での観光行動の魅力を高めるためには、人々の観光行動において大きな時間を割くことになる「移動」そのものの魅力を高め、移動すること自体が楽しい観光地を目指すことが重要です。また、鉄道施設は、鉄道ファンにとってはそれだけで大きな魅力であり、こうした鉄道施設自体を観光資源として活用していくことも重要です。

今後の品川区の観光振興においては、公共交通網が発達した本区の特徴を十分に活かし、交通事業者と連携した観光プログラムづくり（まち歩きツアーやイベント）や、複数の交通事業者の連携による観光プログラムづくり、鉄道ファンをターゲットとした観光プログラムづくりなどを推進し、交通との連携によるしながわ観光の魅力向上を図っていきます。

<施策の展開例>

※【】内は想定される取組み主体

◆交通事業者と連携した観光プログラムづくり

- 交通事業者との連携によるまち歩きツアーの開催 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- 交通事業者との連携による集客イベントの実施 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

◆複数の交通事業者の連携による観光プログラムづくり

- 鉄道事業者、バス事業者、舟運事業者等の連携による観光ツアーの造成 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

◆鉄道ファンをターゲットとした観光プログラムづくり

- 鉄道撮影スポットの紹介 【事業者、観光協会、行政】
- 鉄道事業者が開催するイベントとのタイアップ 【事業者、観光協会、行政】

施策C-2 区内の施設との連携による魅力の向上

大井競馬場やしながわ水族館、きゅりあんや四季劇場[夏]、天王洲銀河劇場といったホール・劇場、東京五反田 TOC ビル（東京卸売りセンター）などは、年間を通じて数多くの利用者のある区を代表する集客施設です。また会議の場やイベントホールとして活用可能な品川産業支援交流施設 SHIP も、集客施設としての役割が期待されます。

このため、こうした区内の集客施設との連携を強化し、これら集客施設の利用者・来訪者に対してしながわ観光の適切な情報提供・PR等を行うなど、区内集客施設の利用者・来訪者のまちなか回遊を促す取組みを推進していきます。また、集客施設で開催されるイベント等の情報について、積極的に発信していきます。



区を代表する集客施設

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆区内集客施設との連携による利用者のまちなか回遊の促進

- 集客施設利用者へのしながわ観光の情報提供 【事業者、観光協会、行政】
- 集客施設のイベント情報などの発信 【事業者、観光協会、行政】

施策C-3 関連産業との連携による魅力の向上

品川区では、品川職人組が中心となって、伝統的なものづくりの技術による新製品の開発や、伝統工芸の実演等の活動が行われています。また、ものづくりの町としての側面も有する品川区には、ものづくりを行っている企業の本社や工場、研究所が立地しています。これら、伝統工芸や企業の優れた技術は、観光のコンテンツになる可能性があります。

また、品川区内にはビジネスホテル、シティホテル等の宿泊施設が立地しており、こうした区内施設への宿泊者は、しながわ観光の重要な顧客ともいえるべき存在です。

今後の品川区の観光振興にあたっては、伝統工芸やものづくりに関わる体験プログラムの開発・実施や、区内宿泊者への観光情報の提供やモニターツアーの開催等、伝統工芸やものづくり、宿泊事業者といった関連産業との連携を推進していきます。また、一般の住宅や空き家を宿泊施設として観光客に貸す「民泊」については2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催までに、そのあり方等を関係機関とともに検討していきます。



区を代表する伝統工芸と伝統工芸イベントの様子

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆伝統工芸・区内産業との連携による観光プログラムづくり

- 品川職人組（伝統工芸保存会）との連携による伝統工芸体験プログラムの実施 【関連団体、観光協会、行政】
- 品川産業支援交流施設（SHIP）等を活用した観光資源の開発 【関連団体、観光協会、行政】

◆宿泊事業者との連携による魅力向上の仕組みづくり

- 区内宿泊施設におけるしながわ観光の情報提供 【事業者、観光協会、行政】
- 区内宿泊者を対象としたモニターツアーの開催 【事業者、観光協会、行政】
- 区内宿泊者へのニーズ調査 【事業者、観光協会、行政】

◆品川区における民泊のあり方の検討 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

施策C-4 広域連携による魅力の向上

より多くの観光客に品川区を訪れてもらうためには、区外の地域と連携することで観光的魅力を高めることが重要です。特に、東京を訪れる観光客は、区境を意識することなく観光行動を行うのが普通であり、こうした意味では、区境を越えた広域観光ルートの設定など、東京都や近隣区との連携が必要不可欠となります。品川区ではこうした認識に基づいて、平成21年から大田区と「品川・大田地域観光まちづくり推進協議会」を結成し、両区連携による観光まちづくりに取り組んでいます。こうした連携は今後も継続していくことが望まれます。

また近隣区との連携のみならず、品川区と縁のある地域との連携も有効です。品川区と交流協定を結んでいる地域や、明治維新や旧東海道に関して縁のある地域と、観光面で連携を図ることで、新たな観光客の獲得も期待できます。

今後の品川区の観光振興にあたっては、広域連携による魅力の向上という視点に立って、近隣区との連携による広域観光ルートの設定、品川区と縁のある地域との連携を推進していきます。



大田区と連携して作成した観光マップとモニターツアーの様子

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆東京都や近隣区との連携による広域観光ルートの設定

- 区域を越えたまち歩きマップ等の作成 【観光協会、行政】
- 品川・大田地域観光まちづくり推進協議会の取組みの継続 【観光協会、行政】
- その他近隣区との連携の検討（観光協会、行政）

◆品川区と縁のある地域との連携

- 品川区と交流協定を結んでいる地域や全国連携プロジェクトとの連携（観光PRイベントの実施、観光客の獲得） 【観光協会、行政】
- 明治維新（伊藤博文、板垣退助、坂本龍馬等）を手がかりとした国内他都市との連携（観光PRイベントの実施、観光客の獲得） 【観光協会、行政】
- 東海道の他の宿場町との連携（観光PRイベントの実施、観光客の獲得） 【関連団体、観光協会、行政】

戦略D | 魅力的な環境づくり

品川区を訪れる多くの人に、安全、快適に品川区の魅力に触れ、楽しんでもらうためには、観光客の観光行動の基盤となるインフラ、環境を整えることが非常に重要です。

そこで、「①観光拠点・交通インフラの充実」「②公共空間の観光活用の推進」「③良好な景観形成」「④情報インフラの充実」「⑤安全・安心な観光地づくり」という5つの視点から、品川区を訪れる観光客が快適な時間を過ごせるような環境づくりを進めます。

施策D-1 観光拠点・交通インフラの充実

品川区の観光振興を図るためには、多くの観光客が利用する観光拠点や、移動手段としての交通インフラの充実を図り、国内外の観光客の方々が安心、快適に区内を回遊できる環境を整えることが重要です。

このため今後は、観光の拠点となる水辺、船着場、バスターミナルの整備・活用を図るとともに、道路や公衆トイレの改良・整備など、安全で快適な回遊を促すための交通インフラの充実を図っていきます。

更に、「手荷物預かりシステム」の導入や、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据えた「両替所」の設置・普及など、国内外からの観光客が快適に区内を巡れるための仕組みについて検討していきます。



大崎駅西口バスターミナルの様子

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆水辺の環境整備

- 水辺の魅力に気軽に親しめる親水空間の整備 【行政】
- ウォーキングやランニングに適した遊歩道などの整備 【行政】
- 水辺の環境整備（緑化等） 【関連団体、行政】

◆五反田リバーステーションの整備

- 五反田リバーステーションの活用方策の検討 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- 五反田リバーステーションの整備 【行政】

◆大崎駅西口バスターミナルの活用

- 高速バスが発着する品川区の新たな玄関口としてのバスターミナル活用 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

◆安全で快適な回遊を促すためのインフラ整備

- まちのトイレの確保・情報発信 【事業者、観光協会、行政】
- 公衆トイレ等の改良・整備 【事業者、行政】
- 自転車レーンの整備 【行政】
- 自転車の観光活用の検討 【事業者、行政】
- 道路におけるバリアフリー化の推進 【行政】
- 観光施設の回遊航路の検討 【事業者、行政】

◆国内外からの観光客の快適な区内回遊を促すための仕組みの検討

- 鉄道駅や観光拠点における「手荷物預かりシステム・ロッカー」の導入検討 【事業者、関連団体、観光協会、行政】
- 「両替所」の設置に向けた検討 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

施策D-2 公共空間の観光活用の推進

近年、河川空間や道路空間を、地域の活性化、賑わいの創出のために積極的に活用する試みが全国で展開されています。品川区においても、五反田ふれあい水辺広場の河川空間を活用して、ケータリングカー営業の社会実験に取り組んできました。こうした公共空間の新たな活用は全国的な動向でもあり、観光振興、地域活性化、賑わい創出などにおいて大きな効果を発揮するものです。

このため今後の観光振興においては、品川区の特徴である河川や運河、道路といった公共空間の観光活用に取り組み、こうした公共空間を活かした地域の活性化、賑わい創出を図っていきます。



ケータリングカー営業の様子

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取り組み主体

◆河川や運河、道路等の観光活用

- 河川空間や道路空間を活用したケータリングカーやオープンカフェ等の社会実験 【事業者、行政】
- 河川空間や道路空間を活用したイベント等の開催 【事業者、観光協会、行政】

施策D-3 良好な景観形成

品川区ではこれまでも、旧東海道品川宿や戸越銀座における道路景観整備など、快適な回遊を促すための景観整備などを実施してきました。また、「品川区景観計画（平成23年1月策定）」では、歴史や水辺等に配慮した景観形成を図ることを景観まちづくりの基本方針として掲げています。また同計画では、品川浦・天王洲周辺を「水辺景観形成特別地区」に、旧東海道品川宿周辺を「重点地区」にそれぞれ指定するとともに、「旧東海道および北馬場通り（品川宿地区）」「戸越公園（旧細川家下屋敷跡）」「目黒川」を景観重要公共施設に指定し、特に景観形成を推進することとしています。これらの地区・施設は何れも、観光面においても重要な拠点となるものです。

更に今後を目を向ければ、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の競技会場予定である「都立大井ふ頭中央海浜公園」（ホッケー、ブラインドサッカー）、「潮風公園」（ビーチバレー）の周辺には、大会の前後区間を含めて国内外から多くの観客、マスコミ関係者等が訪れることとなります。

今後の観光振興においては、「品川区景観計画」に基づいて、拠点となる地区や施設の景観形成を図るとともに、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、競技会場周辺の景観整備について東京都と連携して取り組んでいきます。



道路景観整備によって良好な景観が形成されている旧東海道品川宿と戸越銀座

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆「品川区景観計画」に基づく景観整備・景観形成

- 水辺景観形成特別地区、重点地区における良好な景観形成の促進 【関連団体、行政】
- 良好な景観形成に配慮した景観重要公共施設の整備 【関連団体、行政】

◆五輪競技会場周辺における景観整備

- 五輪競技会場周辺道路における無電柱化の推進 【関連団体、行政】
- 五輪競技会場周辺道路における緑化の推進（街路樹等） 【関連団体、行政】

施策D-4 情報インフラの充実

多くの観光客に快適に区内を回遊してもらうためには、観光地を巡るための情報取得の機会を提供することが重要です。特に、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた場合、外国人観光客への情報提供の仕組みを整えることが非常に重要となります。

このため、今後の観光振興にあたっては、区内各所に設置されている案内サインの充実(拠点などにおける整備、多言語化)や、Wi-Fiスポットの整備などを推進し、情報取得にストレスの少ない観光都市を目指していきます。



区内で整備されているフリーWi-Fiと多言語表記の案内サイン

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆案内サインの充実

- 観光拠点や交通結節点等における案内サインの整備 【事業者、行政】
- 案内サインの多言語化 【事業者、行政】

◆Wi-Fiスポットの整備 【事業者、行政】

施策D-5 安全で安心な観光都市の形成

品川区を訪れる観光客の方々に、安心して楽しい時間を過ごして頂くためには、安全な観光都市づくりを進めることが極めて重要です。特に近年は、東日本大震災の発生や、世界各地でのテロの発生などの影響もあり、観光地における安全対策に注目が集まっています。さらに、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けて今後ますます外国人観光客が増えていった場合、生活習慣の違いによるトラブルなどが起こる可能性もあります。

このため、今後の品川区の観光振興に向けては、観光拠点におけるバリアフリー化や、災害時の観光客への適切な対応方策の検討、マナーや治安の向上に向けた取組みを進めるなど、安全で安心な観光都市づくりを推進していきます。

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆観光拠点におけるバリアフリー化の推進

- 駅構内や駅前などの交通結節点のバリアフリー化の推進 【事業者、行政】
- 公園のバリアフリー化の推進 【行政】

◆災害時の観光客への適切な対応方策の検討

- 災害時の観光客（外国人含む）への情報内容および提供方法の検討 【事業者、関連団体、行政】
- 災害時の観光客（外国人含む）の一時避難場所の検討 【事業者、関連団体、行政】

◆マナー、治安の向上に向けた取組みの推進

- 観光客のマナー向上のための啓発活動の実施 【観光協会、行政】
- 治安の維持・向上に関する取組みの検討 【行政】

戦略E | しながわ観光を支える体制の充実

品川区の観光振興を図る上では、魅力的なコンテンツづくりや、情報発信、基盤となる環境づくり等に加えて、観光客を迎え、もてなすための体制を整えることが必要不可欠です。

そこで、「①担い手の育成」「②推進組織への適切な支援」「③外国人観光客の受入れ体制強化」「④観光統計等の整備」という4つの視点から、しながわ観光を支える体制の充実を図ります。

施策E-1 担い手の育成

品川区を訪れる観光客の方々に心地よく時間を過ごしてもらうためには、観光に関わる人々がおもてなしの心を持って観光客に接し、品川区の魅力や情報を伝えることが重要です。また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた場合、観光に関わる人ばかりでなく一般の区民の方々も観光客に接する機会が増えるものと考えられるため、区民にもおもてなしの心や作法を広めていくことが重要です。

このため、今後の品川区の観光振興に向けては、観光に対する区民意識の醸成や、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えたおもてなしの向上、観光ボランティアの育成に取り組んでいきます。



観光ボランティアガイドによる案内

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆観光に対する区民意識の醸成

- 区民が品川区の観光的魅力に触れる機会の創出（区民を対象にした区内観光資源ツアーの開催等） 【観光協会、行政】

◆2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えたおもてなしの向上

- 外国人を含めた観光客に対するおもてなし向上のための講座等の開設 【関連団体、観光協会、行政】

◆観光ボランティアの育成

- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の見据えた観光ボランティアの育成（アクティブシニア等） 【関連団体、観光協会、行政】
- 観光ボランティアガイドの育成 【関連団体、観光協会、行政】
- 区内在住外国人、留学生を活用した外国人対応の観光ボランティアの育成 【関連団体、観光協会、行政】

施策E-2 推進組織への適切な支援

品川区の観光振興を円滑に実施していくためには、その推進において中心的な役割を担う観光協会への支援が必要です。また、事業者を中心とした観光産業の振興という視点に加えて、“まちづくりの一環としての観光”“区民も楽しめる観光”といった視点も重要となる品川区の都市型観光においては、こうした区民や地域主体の観光まちづくりの活動団体への適切な支援も重要となります。

このため、今後の品川区の観光振興に向けては、一般社団法人しながわ観光協会への支援を継続的に実施していくとともに、必要に応じて、区民や地域主体の観光まちづくりの活動団体への支援を行っていきます。

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆一般社団法人しながわ観光協会への支援 【行政】

◆観光まちづくりを担う団体等への支援

- 区内各地域の観光まちづくりの推進組織、観光ボランティア（ガイド、学生等）への必要に応じた適切な支援 【観光協会、行政】

施策E-3 外国人観光客の受入れ体制強化

近年の訪日外国人観光客の増加、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催などを踏まえ、外国人観光客の受け入れ体制の強化を図っていきます。



区内の商店街や駅での外国人観光客の受入れに向けた取組みの様子

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆外国人観光客が楽しめる観光プログラムの開発 【事業者、観光協会、行政】

◆外国語対応可能な人材の育成 【事業者、関連団体、観光協会、行政】

◆外国人観光客が安心して飲食を楽しめる仕組みづくり

- 飲食店メニューの多言語化 【事業者、関連団体、行政】
- 宗教や文化に配慮した食の提供 【事業者、関連団体、行政】

施策E-4 観光統計等の整備

観光振興を効果的、効率的に進めていくためには、これまでの取組みの成果や課題を明らかにし、次の観光施策の展開に活かしていくことが重要となります。

このため、取組みの成果や課題を明らかにするための基礎的データとして観光統計の整備を進めます。また、観光統計をもとに取組みの成果・課題を検討し、観光関連施策へ適切にフィードバックします。

<施策の展開例>

※ 【】内は想定される取組み主体

◆基礎的な観光統計の整備

- 主要な集客施設への入込客数データ等の収集・整理 【行政】
- 観光ツアー等の参加者に対するアンケート調査の実施 【行政】

◆観光統計を活用した取組み成果・課題の検討と施策へのフィードバック

- 観光統計の「品川区都市型観光プラン」の中間見直しなどへの活用 【行政】